

宇都宮市民憲章

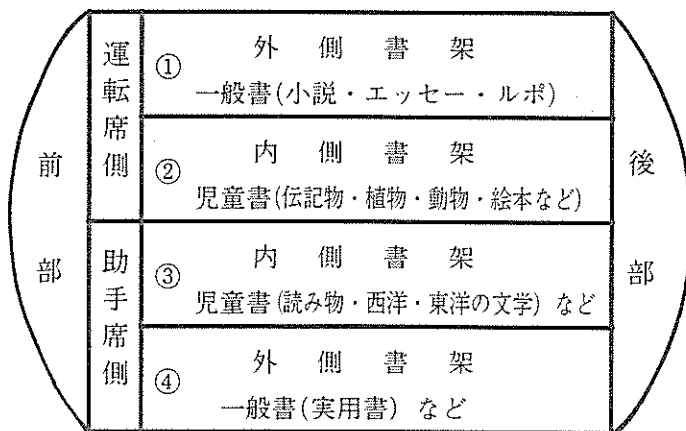
- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくります。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

としがく



一月七日(火)から新しくなった移動図書館「さつき一号」が、巡回を開始しました。
今回の新しい「さつき一号」は、3.5トンのトラックキャブ使用後部バス型改造車であり、電動式雨よけテントなどの4しい装備を取り付けました。
積載冊数は、絵本、紙しばい、読み物など児童書を約一、六〇〇冊、小説、エッセイ、実用書などが約一、四〇〇冊となっており、下図のように配架されています。また、より親しまれる移動図書館車を目指して、ボランティアに「キリン」の親子をデザインに取り入



移動図書館書架案内図

移動図書館さつき一号 新型ボディーで登場 積載冊数 三、〇〇〇冊

また、
なほ、利用方法、巡回コース等は、従来通りであります。

移動図書館ご案内

平成3年度 アンケート調査まとめ！



来館者の皆様にご協力いただいたアンケート調査がまとまりました。ありがとうございます。

一日平均の読書時間は1時間45分
テレビ視聴時間は2時間55分となっている。

この調査は平成3年8月15日、25日の開館日（10日間）に来館した小学生以上の人を対象に行ったもので、「読書アンケート」は小学生以上、「図書館利用アンケート」は中学生以上の方に記入してもらいました。内訳は次の通り。

〈調査内訳〉

小学生	316人
中学生以上	622人
中学生	41%
高校生	17%
一般	42%

男女の割合は、小学生は女子が67%と多く、中学生以上は男性が43%、女性が57%となっている。また、中学生以上の職業別割合は調査内訳の通りで一般のうち勤め人が20%、無職（主婦を含む）が14%となっている。

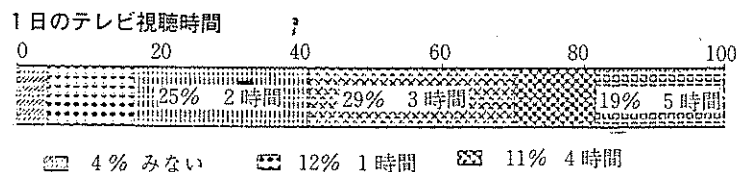
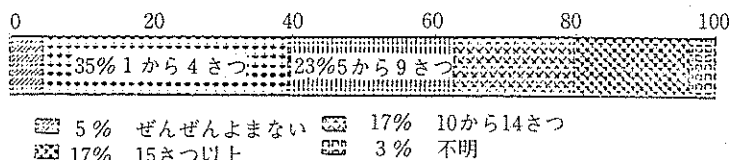
読書アンケート調査

〈小学生〉

●読書量

一カ月平均読書量は5.7冊で昨年8.5冊、一昨年6.4冊より下回っている。学生別では3・4年生が最も多く、「ぜんぜん読まない」人の数も1年生では14%を含めるが3年生で0%となっている。また、

読書量（小学生）



12項目から好きなジャンルを選択してもらった。（複数回答可）

ジャンル別に多いものからならべてみると表のようになる。学年別では絵本が高学年になるほど減少し、推理小説、歴史の本が増加している。

〈書名別順位〉

1位	ウォーリーの本	マーティン・ハンドフォード
2位	赤毛のアン	モンゴメリー
3位	アンパンマン	やなせたかし
	恐竜の本	
	鉄道の本	
	(雑誌)	

●いちばん好きな本
いちばん好きな本の書名を記入してもらい、書名別順位をだしてみた。
一位にCMにも使用されている「ウォーリーの本」が、一位に名作「赤毛のアン」が続く、二位に「恐竜の本」が、展などの影響から入っている。

どんな本を読むか（小学生） ジャンル別順位

読み物・童話	26%
歴史の本	11%
推理小説・SF	10%
絵本	9%
趣味・スポーツの本	8%
図鑑	7%
動物・植物の本	7%

●図書館について

図書館の好き嫌いについては好きが80%、一カ月の利用回数は1〜4回が71%で最も多い。図書館利用に対する家族の意識（問・図書館で本をかりてゆくと家の人はなんといいですか）は忘れないようにしなさいが29%、もつと読みなさいが27%で合わせて全体の56%を占め、読書、図書館利用とも、積極的である。

〈中学生以上〉

中学生以上は中学生・高校生・一般の3種類に分けて分析した。

●読書量

一カ月平均読書量は5.2冊で、昨年4.1冊より1冊増えている。一日の平均読書時間は1時間18分。また、テレビ視聴時間は2時間が31%で最も多い。

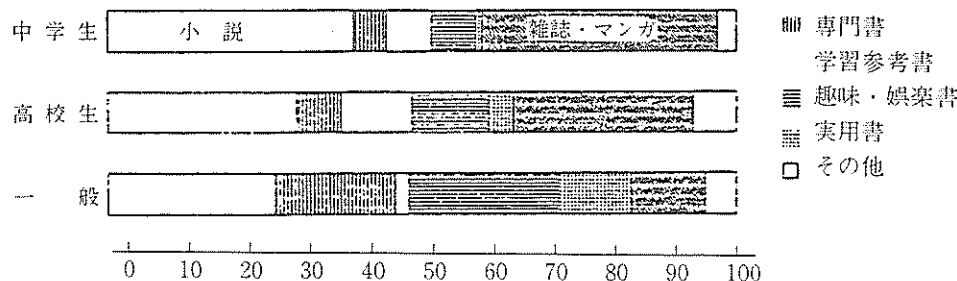
●読書傾向

どんな種類の本を読むか7項目から選択してもらった。ジャンル別に多いものをあげてみる。

—どんな種類の本を読むか（中学生以上）— ジャンル別順位

小説	32%
雑誌・マンガ	25%
趣味・娯楽	15%
専門書	11%

—どんな種類の本を読むか（中学生以上） 職業別グラフ



職業別のグラフは次の通り。

図書館利用後、雑誌や本を買うことはどうですかという質問ではほとんど同じが54%、少なくなったが31%、増えたが25%となっている。「増えた」は中学生に多く、「なくなった」は一般に多くなっている。

今まで読んだ本の中でよいと思った本

(中学生)

書名	著者名
1位 ロードス島戦記	水水野 良良
三国志	羅 貫 中
時のかがやき	
赤毛のアン	モンゴメリー

(高校生)

1位 ごころ	夏目 漱石
--------	-------

(一般)

書名	著者名
人間の条件	五味川 純 平
兎の眼	灰 谷 健次郎
塩狩峠	三 浦 綾子
銀河英雄伝説	中 中 芳 樹

好きな本は次の表の通り。好きな著者は赤川次郎、折原みつ、夏目漱石、宮沢賢治などが上位にあがっている。

図書館利用アンケート

●来館方法

約8割の人が自宅から来ており交通機関は自転車41%、自家用車が28%となっている。来館に必要な時間は30分以内が60%、60分以内が29%である。

●図書館にきた目的

図書館にきた目的は「本を借りる・返す」が50%、「調べもの・情報を得る」が16%、「閲覧室を利用する」が15%となっている。借りる本を決めてきた人は約6割、希望の本は約8〜9割ある。

また、職員にたずねなくても約8割の人が情報を得たり、調べものができている。

希望の本がなかった場合、あきらめている人が約7割いるので、予約制度や相互貸借、調査相談コーナーなどを利用下さい。

●利用者用のコンピュータ

(一階一般開架室入口に設置) 利用している人は約4割、利用したことがない、知らない人は約5割である。利用者用のコンピュータは一階一般開架室の入口左手にあります。お子さんにもわかりやすく調べることができるのでご利用下さい。

●図書館に望むこと

新刊書をもっと多く	18%
いすをもっと多く	18%
もっと夜遅くまで開く	14%
専門書をもっと多く	12%
気軽に親切に相談できる職員	11%
借りられる冊数をふやす	8%
貸出期間を延ばす	7%
その他	7%
特になし	5%

●図書館に対する満足度

図書館に対する満足度は約6割が満足となっており、不満は一部弱にとどまっている。

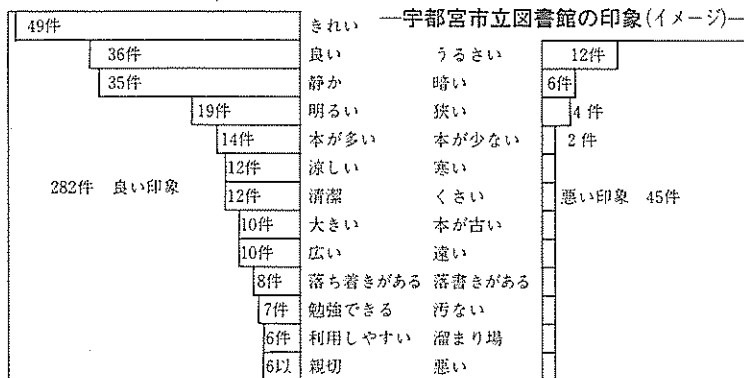
●図書館のイメージ

「宇都宮市立図書館の印象(イメージ)」を一言でいって下さい。という問いで自由に記入してもらった。良いイメージをもっている人が約8割強で、きれいな、良い、静かな、明るい、本が多いなどがある。悪いイメージはうるさい、暗い、狭いなどがあり、下記のグラフのようになっている。

●図書館への意見等

この図書館の資料、施設、職員について感じていることを自由に記入してもらった。総回答件数は115件。印象等が27件、要望等が88件あった。(下記の表参照)

—宇都宮市立図書館の印象(イメージ)—



—図書館への印象・要望—

要望等	88件
いす	24件
いすを多く	19件
資料を多く	10件
うるさい	10件
不愛想	27件
印象等	8件
親切	5件
やさしい	4件
感じがよい	4件
良い	4件

読書会推進講座

去る十二月十二月(木)午後一時三〇分から、現在、読書会活動

をしている方や読書会活動に興味のある一般市民の方を対象に社団法人家の光協会文化センター職員高山功氏をお招きして読書会推進講座を開催しました。

「読書会のすすめ方」をテーマに、二時間にわたる講演は、まず「読書会の開き方」司会者の心得等について話され、

○メンバーは五〜六人程度のグループが望ましい。

○司会は全員の持ちまわりにすること。

○会の記録を行うこと。

○メンバーはできるだけ同じレベルが望ましい。

○メンバーは集まりやすいように同一地域の方が望ましい。

○息抜き、気分転換を図るため途中でレクリエーションを導入すること。

○欠席者にはその日の結果を報告すること。

○マンネリ化を防ぐためメンバー以外の助言者を加えること。

の八つの原則を読書会運営の柱とし、背のびをせず、マンネリ化を防ぐため型にはまらないで継続することが大切である。また、読書ばかりでなく実生活のいろいろな問題を取り上げてみんなで解決する実践活動を通して考える力を養い、お互いの知識と教養、連帯感を高めるとともに読書会の活性化を図り、メンバー個々の人生を豊かにすることが読書会の大きな意義であると結ばれた。

この講座は初めての企画でしたが、受講者から「今後の読書会活動に大いに参考になった。」と大変好評を得ることができました。

児童文学者を囲む会

田島征三展・

田島征三氏を囲む会

宇都宮子どもの本連絡会との共催による「児童文学者を囲む会」が去る平成3年11月24日(日)、三階集会室にて行われました。今回は、画家で、絵本も多数出していらつしやる田島征三氏をお迎えしました。絵本作家である前に、画家であることを大事にしていらつしやる田島氏の希望もあつて、展覧会も併せて開催しました。



展覧会の日程は、11月19日(火)・24日(日)。会場は一階ロビー。展示したものは、田島氏の近作で、小学館絵画賞などの受賞作『とべ、バツタ』の原画三点和、シルクスクリーンを十五作品。それに、田島氏と交流のある信楽青年寮という授産施設の人達が作った様々な陶器と一緒に展示しました。

足を止めて熱心に見入っていく人の多くは、『とべ、バツタ』のタッチの力強さに引きつけられていたようです。感想を求められ、『すごい』と一言だけおつしやる方々が殆んどで、その一言には様々な意味が込められているような気がします。

講演会は、前達の信楽青年寮の人達との交流を中心に語られました。出会いは六年前、四日市の本屋で土鈴に目を止めたところに遡ります。そこから青年寮の手すきの紙を得られたことで、田島氏の

作品の規模(単なる大きさという意味ではなく)が広げられたそうです。田島氏は、彼らが自分たちの喜びのためにすすっている紙が、他では得難い味を持つていて、そこに共感できることを強調なさっていました。

話は、青年寮の人たちや自然とのかかわりについて終始しましたが、そこから田島氏の創作活動の姿勢が読みとれたような気がします。受講者からも、氏の絵本の原動力を少し理解できた、という感想が聞かれました。

(受講者83名。託児14名)



日本古典

文学講座

佐々木巧一氏

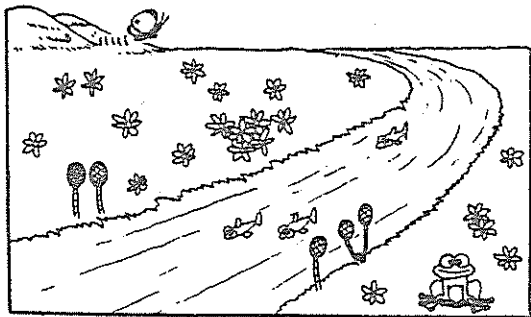
10月13日・20日・27日「日本古典文学講座」を開催しました。

講師は国学院大学栃木短期大学教授の佐々木巧一氏。テーマは「平家物語の抒情的成長」。話の中で佐々木氏は、前記軍記文学の最高位置を占める平家物語を三回にわたり解説されました。

第一回目は、「月見の章で王朝懷古」と題し、平家の大將である徳大寺実定卿が遷都移りの愚かしさを論じ、貴族の世界への挽歌を描いている。

日本古典文学講座





第二回目は、「忠度都落ちの章」では、平清盛の末弟である薩摩守忠度と歌壇の大御所藤原俊成卿との歌の別れというところに展開する叙事性と抒情性を描いている。

最終回では、「海道下りの章」

において、平清盛の子である因われの身の重衡朝臣が死の運命の待つ鎌倉へ護送されていくその時の悲痛な道行を描き、以上の各章を通して平家一門の盛衰興亡を抒情的散文性豊かに語られました。

くふるさとの本を紹介く

『野生を追って』

——とちぎの鳥・獣・魚——

北関東カラーエージエンシー編
下野新聞社発行

一九八八年・二、八〇〇円

自然が豊かであるといわれている栃木県でも、野生動物の日常の様子を実際に見ることは困難になりつつありますが、この本では、それらの動物たちの素顔を美しいカラー写真で紹介しています。昭和六十一年五月から約一年半にわたって下野新聞に連載された同名の企画をもとに、さらに写真を追加したもので、鳥六十七種、獣十四種、魚十八種、その他三種の計百二種類におよぶ動物の写真が収められています。

撮影には、「栃木県内のあらゆる写真を網羅する事と、地域の出版文化に寄与する事」(あとがきより)を目的に設立された北関東カラーエージエンシーの契約カメラマン二十一人が当たりました。

人間が接近することを簡単には許さない野生動物を相手に、粘り

強くシャッターチャンスを待ち、野生動物の厳しい、あるいは愛らしい表情を見事にとらえたそれぞれの写真は、カメラマンの自然を慈しむ心があつてこそ撮影することができたでしょう。写真に添えられた解説文は、撮影者自身が執筆しており、その動物の生態の他に、撮影のエピソードも付けられています。一枚の写真を撮るためにどれだけの労力を使わなければならなかったかをうかがい知ることができます。

約百枚の写真は、夏・秋・冬・春の順序で編集され、立松和平氏による自然讃歌が各章ごとに寄せられています。環境破壊の進む中で、また季節ごとに変化する自然の中で必死

郷土資料

コーナー

⑪

冬休み

おたのしみ会

去る12月26日(日)、恒例の冬休みおたのしみ会を開催した。今回は午前の部を30分繰り下げて開演してみたところ、大人・子どもあわせて約150人が参加する、という盛況ぶりだった。内容は次の通り。

※午前の部：大型紙芝居、パネルシアター、人形劇、工作。

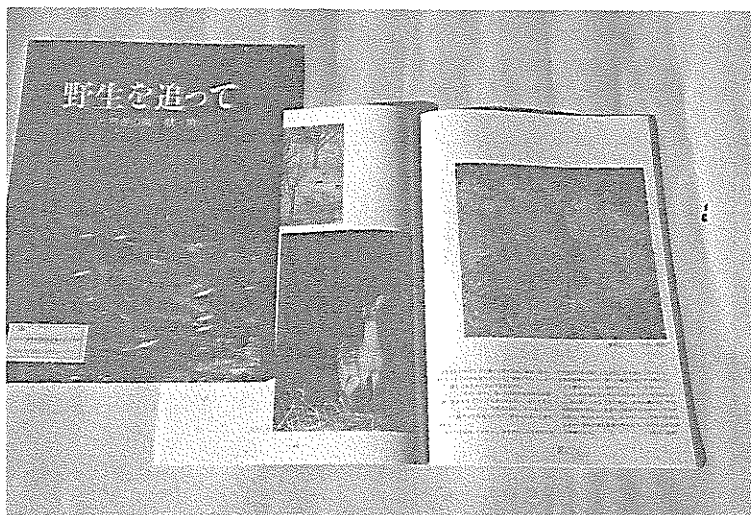
紙芝居は子どもたちの自作自演によるもので、かわいらしい声が響き渡った。人形劇は「三まいのおふだ」で、とても親しみやすい子どもたちも劇に入りこんで楽しんでいた。

※午後の部：紙芝居、おはなし、スライド、工作、影絵。

参加者約110人。午前中より児童の年齢層が少し上がったように思う。

スライドは「くまのピーデイクン」。白と黒のはっきりした画面でとても見易かった。それに、大型影絵「モチモチの木」と、午後の部は大幅面で視覚的に訴えるものが多く、子どもから大人まで一緒に楽しめた。

折り絵は、午前・午後とも時間が少し足りなくて残念だったが、それぞれ思い思いに楽しんでいたようだ。



ねえ、もっと

本読んでみない？

武蔵野市の

読書動機づけ指導に学ぶ！

武蔵野市で実施している、小学校3年生を対象とした「読書動機づけ指導」について勉強します。

▽日時：2月23日(日)と3月15日(日)の2回。時間はいずれも1時30分～3時30分。

▽会場：市立図書館三階集会室

▽内容：第一回「武蔵野市の動機づけ指導について。その概要を学び。第二回「

ニュースコーナー

実践の方法について。ブックトークなどを交えて実践の方法を紹介。

▽講師：小林弥栄子氏。(武蔵野市で動機づけ指導を11年間実践している。)

▽受講料：無料

▽定員：60名(一回連続で受講できる方に限ります。)

※第二回は、小学2～4年生のお子さんも一緒にどうぞ。申込み時にその旨をお申し出下さい。

▽申込：2月14日(金)、午前9時30分から直接又は電話で市立図書館へ。

※詳しいことは、市立図書館外奉仕課までお問い合わせ下さい。
☎10231。

第57回落語会

落語会の模様を録音して、目の不自由な方々に郵送貸出をします。寄席の雰囲気づくりのためには、あなたの笑い声が一番です。ぜひ、おでかけください。

今回はプロの落語家をお招きします。

▽日時：3月21日(土)午後3時～5時。

▽会場：市立図書館3階集会室

▽特別出演：金原亭馬治

▽協力：のんき亭喜楽一門会

▽入場料：無料

※詳しくは、市立図書館☎360231へ。

ボランティアのみなさん ありがとうございます

点字・声の図書製作
状況(3年9～12月)

▽点字図書 「小児病棟」「避暑地の猫」

「和英標準問題精講」

ほか17タイトル70冊

▽声の図書 「ピン

ドゥ教とイスラム教」

「実用版仏事の百科」

「彼女彼女」ほか32タイトル16巻

郵送貸出利用状況(9～12月)

寄贈

▽点字図書	20人	112冊
▽雑誌	63人	63冊
▽声の図書	81人	947巻
▽雑誌	1354人	2136巻
▽墨字本	23人	91冊

原子力工学試験センター広報企

画室(エネルギー四季の彩、早稲

田大学探検部OB会事務局(早稲

田大学探検部30年史、大同生命財

団(マシステイ、栃木日産自動車

販売(ワニとこうとう、日本図書

館協会(中国食物事典、国際協力

事業団(国際協力事業団年報一九

九二、馬場元志(歌集折鶴の羽ば

たき、東京新聞宇都宮市局(芥川

也寸志、岩田利治(頂上に立つ90

歳の提言・アイデア集、オリンパ

ス光学工業(日本方言図鑑、磯ヶ

谷養鶏園(鶏声コレクション図録

全三巻)、花ヶ前盛明(中世越後の

歴史、蕪木和夫(マンガ界のウラ

の裏がわかる本、中臣英春(戦い

に明け暮れて、安武千恵(紫陽花、

福澤悦子(歌集八溝嶺)、他多数。

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

○貸出は

図書・紙芝居

レコード・CD

ビデオ・16ミリフィルム

○講座の問合せ・申込み

電話または直接図書館へ

電話(36)0231

貸出状況

区分	3年11月	3年12月
登録者数	160,040人	160,476人
貸出人 数	館内	15,916人
	館外	13,479人
	中央公民館	2,021
	中央公民館	769
	雀宮公民館	1,223
	地区センター	499
合計	20,428	17,124
貸出冊 数	館内	53,484人
	館外	46,328冊
	中央公民館	9,559
	中央公民館	2,348
	雀宮公民館	4,720
	地区センター	1,870
合計	71,981	64,487

(注)・登録者累計数は、開館からの累計数
・地区センターは篠井、清原地区センター内図書室

2月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
2	③	4	5	6	7	8
9	⑩	⑪	12	13	14	15
16	⑰	18	19	20	21	22
23	⑳	24	25	26	27	28
29						

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑯	17	18	19	⑳	21
22	㉓	24	25	26	27	28
29	㉔	31				